

健全で豊かな森林づくりプロジェクト 自己評価シート（5年間の総括）

| | | | | | | | |
|-----------------|---|--|---|--------------|------------|--------------|--------|
| プラン名 | 急傾斜地域における路網整備と機械を活用した低コスト木材生産 | | | 作成日 | 24年 4月 27日 | | |
| 実施方法 | <input type="checkbox"/> 単独 | <input checked="" type="checkbox"/> J V | 所属 | 中濃森林組合 | 記入者 | 林郁夫 | |
| プロジェクトの対象・目的・内容 | 対象（誰を、何を） | | 目的（どういう状態にしたいのか） | | | | |
| | ○放置人工林 ○成熟しつつある森林資源 ○木材生産システムが未確立 ○施業集約化ノウハウ不足 ○作業路開設技術が乏しい ○森林所有者の路網アレルギーと山に対する関心の低下 | | ○明るく下草が繁茂する健全な人工林に転換 ○利用伐期齢にある森林から木材生産を促進 ○中濃地域独自の路網整備と高性能林業機械を活用した木材生産システムを確立 ○小規模森林所有者の施業集約化 ○急傾斜地域における路網開設技術の習得 ○低コストで壊れにくい作業路の開設 ○森林所有者の山林に対する関心を喚起 | | | | |
| 事業内容 | 事業内容（どのような方法で、何を行うのか） | | | | | | |
| | ○J Vを組むことにより森林組合の情報力と民間事業者の素材生産力を組み合わせ効率的で生産性の高いシステムを構築。 ○高性能林業機械の導入により車両系と架線システムの確立。 ○その森林に最適な施業プランを作成し、座談会、戸別訪問、現地説明会の開催により集約化を図る。 ○森林所有者へ所得還元を図り、森林に対する関心の喚起を図る。 ○先進地視察や講師を招き技術の習得。 ○産官学が連携して事業のPDCAサイクルに取り組み、着実なプロジェクトを推進。 | | | | | | |
| 事業期間 | | 平成 19年度 ～ 平成 23 5 年間) | | | | | |
| | | モデル団地への国・県・市町村補助金投入額（平成 23 年度決算） ※職員人件費を除く | | | | | |
| 事業種別 | | 森林整備関係 | 搬出補助関係 | 機械導入関係 | 路網整備関係 | 治山・保安林関係 | その他 |
| 財源内訳 | 予算執行額（千円） | 44,830 | 1,500 | 54,285 | 10,146 | | |
| | 国・県費 | 34,485 | 1,500 | 25,850 | 7,516 | | |
| | 市町村費 | 3,128 | | | | | |
| | 一般財源 | | | | | | |
| | その他 | 7,217 | 0 | 28,435 | 2,630 | | |
| 事業実績 | 成果指標 | | 単位 | 事業計画（5年間の総計） | | 事業実績（5年間の総計） | |
| | | | | 計画 | | 実績 | |
| | ① | 施業集約化 | ha | | 46 | | 135 |
| | ② | 植栽 | ha | | 5 | | 0 |
| | ③ | 下刈・除伐 | ha | | 6 | | 0 |
| | ④ | 切捨間伐 | ha | | 145 | | 92 |
| | ⑤ | 利用間伐 | ha | | 105 | | 76 |
| | ⑥ | 主伐 | ha | | | | |
| | ⑦ | 作業道開設（延長） w= 3.0 / 3.6 m | m | | 7,000 | | 5,175 |
| | ⑧ | 作業道開設（開設コスト） w= 3.0 / 3.6 m | 円/m | | 7,000 | | 2,800 |
| | ⑨ | 木材生産量（モデル団地内） | m ³ | | 9,000 | | 3,438 |
| | ⑩ | 木材生産量（モデル団地外） | m ³ | | 24,400 | | 3,410 |
| | ⑪ | 木材生産性 | m ³ /人日 | | 2.8 | | 4.5 |
| | ⑫ | 木材生産コスト（伐採～積込まで） | 円/m ³ | | 10,000 | | 10,000 |
| | ⑬ | 高性能林業機械導入 | 台 | | 3 | | 3 |
| | ⑭ | 伐採専門チーム養成 | チーム | | 1 | | 1 |
| | ⑮ | 施業プランナーの育成 | 人 | | 4 | | 4 |
| | ⑯ | 定点観測写真撮影 | 箇所 | | 4箇所 | | 4箇所 |
| | ⑰ | 森林所有者に対する意識調査 | 回 | | 5回 | | 5回 |
| | ⑱ | 森プロ検討会の開催 | 回 | | 5回 | | 13回 |
| | ⑲ | 視察・研修会の開催 | 回 | | 25回 | | 40回 |
| | ⑳ | 林産班の編成・育成 | 班 | | 1班 | | 1班 |
| | (21) | 作業路開設の事前検討 | 路線 | | 10路線 | | 11路線 |
| | (22) | 一般市民に対する普及啓蒙 | 回 | | 10回 | | 3回 |
| | (23) | J V協定量 | ha | | 410 | | 131 |
| (24) | 施業方法の検証 | 回 | | 5回 | | 4回 | |
| (25) | | | | | | | |
| 補足説明 | 森林施業プランナーを4名養成して実際の現場を担当している。他の職員も作業路開設・利用間伐の必要性が理解されてきた。 | | | | | | |

| 【フォローアップ委員会時点の自己評価】 | | | | |
|-----------------------------|---|---|---|----------|
| 配点 | 3点 | 2点 | 1点 | |
| プロジェクトは当初計画どおり実施されているか | <input type="checkbox"/> 実施されている | <input checked="" type="checkbox"/> 一部未実施 | <input type="checkbox"/> 実施されなかった | 1 達成度 |
| 当初設定した目標（生産コスト等）は達成したか | <input type="checkbox"/> 達成した | <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した | <input type="checkbox"/> 達成しなかった | |
| 進捗管理（定点観測等）は実施されているか | <input checked="" type="checkbox"/> 実施されている | <input type="checkbox"/> 一部未実施 | <input type="checkbox"/> 実施されなかった | |
| 【プロジェクトの総括自己評価】 | | | | |
| 配点 | 3点 | 2点 | 1点 | |
| プロジェクトは当初計画どおり実施されているか | <input type="checkbox"/> 実施されている | <input checked="" type="checkbox"/> 一部未実施 | <input type="checkbox"/> 実施されなかった | 2 成果 |
| 当初設定した目標（生産コスト等）は達成したか | <input type="checkbox"/> 達成した | <input type="checkbox"/> 一部達成した | <input checked="" type="checkbox"/> 達成しなかった | |
| 進捗管理（定点観測等）は実施されているか | <input checked="" type="checkbox"/> 実施されている | <input type="checkbox"/> 一部未実施 | <input type="checkbox"/> 実施されなかった | |
| 補足説明 | 路網構築と機械利用による低コスト木材生産システムの普及が進み、山元に利益を還元できるシステムが構築され、森林所有者の山に対する関心が高まってきた。 しかし、搬出単価のコスト削減までには至っていない。 | | | |
| 【フォローアップ委員会時点の自己評価】 | | | | |
| 配点 | 3点 | 2点 | 1点 | |
| 木材生産の拡大が図られているか | <input checked="" type="checkbox"/> 図られている | <input type="checkbox"/> 一部図られている | <input type="checkbox"/> 図られていない | 3 効率性 |
| 森林環境（動植物等）の改善を確認できるか | <input type="checkbox"/> 大いに確認できる | <input checked="" type="checkbox"/> 一部確認できる | <input type="checkbox"/> 確認できない | |
| 山地災害発生を抑制する工夫ができたか | <input type="checkbox"/> 工夫できた | <input checked="" type="checkbox"/> 一部工夫できた | <input type="checkbox"/> 工夫できなかった | |
| 【プロジェクトの総括自己評価】 | | | | |
| 配点 | 3点 | 2点 | 1点 | |
| 木材生産の拡大が図られているか | <input type="checkbox"/> 図られている | <input checked="" type="checkbox"/> 一部図られている | <input type="checkbox"/> 図られていない | 4 妥当性 |
| 森林環境（動植物等）の改善を確認できるか | <input type="checkbox"/> 大いに確認できる | <input checked="" type="checkbox"/> 一部確認できる | <input type="checkbox"/> 確認できない | |
| 山地災害発生を抑制する工夫ができたか | <input type="checkbox"/> 工夫できた | <input checked="" type="checkbox"/> 一部工夫できた | <input type="checkbox"/> 工夫できなかった | |
| 補足説明 | 施業提案による本格的な間伐材の利用拡大が図られた。丈夫で壊れにくい作業路開設のため、以下の通り線形の踏査から施工に至るまで実施した。崩壊予定地や岩を避けること。急傾斜地においては丸太組工の採用。また、雨水を集中させないように外カントの採用。洗い越しについては、沈砂池を設置し基礎部に転石を敷き詰める等水処理に細心の注意を払った。 | | | |
| 【フォローアップ委員会時点の自己評価】 | | | | |
| 配点 | 3点 | 2点 | 1点 | |
| コストや業務量に見合った成果が得られたか | <input type="checkbox"/> 得られた | <input checked="" type="checkbox"/> 一部得られた | <input type="checkbox"/> 得られていない | 3 効率性 |
| 効率的な実施体制で推進されているか | <input type="checkbox"/> 推進された | <input checked="" type="checkbox"/> 概ね推進できた | <input type="checkbox"/> 推進できていない | |
| 積極的に民間活力を活用しているか | <input checked="" type="checkbox"/> 活用できた | <input type="checkbox"/> 一部活用できた | <input type="checkbox"/> 活用できなかった | |
| 【プロジェクトの総括自己評価】 | | | | |
| 配点 | 3点 | 2点 | 1点 | |
| コストや業務量に見合った成果が得られたか | <input type="checkbox"/> 得られた | <input checked="" type="checkbox"/> 一部得られた | <input type="checkbox"/> 得られていない | 4 妥当性 |
| 効率的な実施体制で推進されているか | <input type="checkbox"/> 推進された | <input checked="" type="checkbox"/> 概ね推進できた | <input type="checkbox"/> 推進できていない | |
| 積極的に民間活力を活用しているか | <input checked="" type="checkbox"/> 活用できた | <input type="checkbox"/> 一部活用できた | <input type="checkbox"/> 活用できなかった | |
| 補足説明 | JVで実施し、森林組合の情報力と民間事業者の素材生産力を組み合わせ効率的実施体制で推進している。このほか、流通コストを削減するため、山土場・中間土場仕分けをし、森連のシステム販売等を活用して有利販売に心掛けた。また、小径木まで有効利用することを心掛けている。 しかし、機械が効率的に稼働するだけの現場作業者がいないことも否めず、今後は新規就労者の確保必要。 | | | |
| 【フォローアップ委員会時点の自己評価】 | | | | |
| 配点 | 3点 | 2点 | 1点 | |
| 地域住民（森林所有者）のニーズを反映しているか | <input checked="" type="checkbox"/> 反映している | <input type="checkbox"/> 一部反映している | <input type="checkbox"/> 反映していない | 4 妥当性 |
| プロジェクトの計画内容（箇所・時期等）は適当であったか | <input type="checkbox"/> 適当であった | <input checked="" type="checkbox"/> 一部適当でなかった | <input type="checkbox"/> 適当でなかった | |
| 期待する人材は養成されたか（伐採専門チーム等） | <input type="checkbox"/> 養成された | <input checked="" type="checkbox"/> 一部養成された | <input type="checkbox"/> 養成されていない | |
| 【プロジェクトの総括自己評価】 | | | | |
| 配点 | 3点 | 2点 | 1点 | |
| 地域住民（森林所有者）のニーズを反映しているか | <input type="checkbox"/> 反映している | <input checked="" type="checkbox"/> 一部反映している | <input type="checkbox"/> 反映していない | 4 妥当性 |
| プロジェクトの計画内容（箇所・時期等）は適当であったか | <input type="checkbox"/> 適当であった | <input checked="" type="checkbox"/> 一部適当でなかった | <input type="checkbox"/> 適当でなかった | |
| 期待する人材は養成されたか（伐採専門チーム等） | <input type="checkbox"/> 養成された | <input checked="" type="checkbox"/> 一部養成された | <input type="checkbox"/> 養成されていない | |
| 補足説明 | 森プロ事業実施地をモデル林として位置付けして、木材生産システムの研修会を開催し啓蒙普及に努めた。森林組合の林産班が結成され活躍中であり、他の班へも技術を伝授している。 | | | |

| 【フォローアップ委員会時点の自己評価】 | | | | |
|----------------------------|--|---|-----------------------------------|--|
| 配点 | 3点 | 2点 | 1点 | |
| 関係者(住民・所有者・従事者)の満足度は向上したか | <input checked="" type="checkbox"/> 向上した | <input type="checkbox"/> 一部向上した | <input type="checkbox"/> 向上しなかった | |
| 選定委員会、研修等における指摘事項は十分対応できたか | <input type="checkbox"/> 対応できた | <input checked="" type="checkbox"/> 一部対応できた | <input type="checkbox"/> 対応できなかった | |
| 上記以外にも成果向上のための改善余地はあるか | <input checked="" type="checkbox"/> 余地がある | <input type="checkbox"/> 一部余地がある | <input type="checkbox"/> 余地がない | |
| 【プロジェクトの総括自己評価】 | | | | |
| 配点 | 3点 | 2点 | 1点 | |
| 関係者(住民・所有者・従事者)の満足度は向上したか | <input type="checkbox"/> 反映している | <input checked="" type="checkbox"/> 一部反映している | <input type="checkbox"/> 反映していない | |
| 選定委員会、研修等における指摘事項は十分対応できたか | <input type="checkbox"/> 適当であった | <input checked="" type="checkbox"/> 一部適当でなかった | <input type="checkbox"/> 適当でなかった | |
| 上記以外にも成果向上のための改善余地はあるか | <input type="checkbox"/> 養成された | <input checked="" type="checkbox"/> 一部養成された | <input type="checkbox"/> 養成されていない | |
| 補足説明 | 所有者：作業路が開設されることにより山の利用価値も上がり、さらに間伐により山が明るく健全な人工林になった。そのうえ、利益還元もあり所有者は満足している。 従事者：機械化により荒天時作業も可能になり施工計画が容易になり就労日数が増加した。また、機械化により労災事故が減少した。 | | | |

自己評価結果(集計)

| 評価集計 | 1 達成度 | 2 成果 | 3 効率性 | | |
|------|-------|----------|--------|--|----|
| | 7 | 6 | 7 | | 7 |
| | 4 妥当性 | 5 発展性 | 合計点 | | |
| | 7 | 6 | 36 | | 31 |
| 総合評価 | | フォローアップ時 | 5年目総括時 | | |
| | | A | B | | |

総合評価：A＝現状維持 B＝充実・拡大 C＝要改善

(配点区分：A＝45～36点 B＝35～26点 C＝25～15点)

| | |
|-----------|--|
| 農林事務所コメント | <ul style="list-style-type: none"> 切り捨て間伐から利用間伐へのシフトが求められる中、地域の林業事業体とJVという新たな形態で木材生産拡大に取り組むことができた。 組合自らも直営班を編成し、路網開設延長も急増している。また、今年度は高性能林業機械の導入も計画されるなど、木材生産拡大への積極的な姿勢が見られる。 当プロジェクトで習得された施業集約化・木材生産・路網開設技術等が今後の組合事業の中で生かされること望む。 |
|-----------|--|

プロジェクト実施者による自己総評

| | |
|--------------------|--|
| プロジェクト構成員による個別コメント | <ul style="list-style-type: none"> ハード面では計画を大きく下回ったものもあったが、森プロ全体としてはJVという新しい試みを実施し、他の事業体との提携など今後の新たな実施方式の参考とすることができた。 架線系・車輛系による搬出システムの確立について、十分な能力の取得、発揮までには至らなかったものの、利用間伐を推進する大きなきっかけとなった。反面、所有者の間伐方法と搬出材に対する意識は旧態依然のままであり、引き続き組合員の意識改革に取り組む必要がある。 現場の状況は千差万別であり、搬出コスト低減のためには車輛系・架線系のみならず多様なシステムの構築、選択が課題となる。そのためには、現場職員、作業班員のスキルアップが必要である。 造林型から林産型へ移行する中で面的な施業集約化の必要性を認識し、提案型集約化施業に取り組むきっかけとなり、管内へ浸透しつつある。 組合自らも直営林産班を編成し木材生産を行っているが、限られた林業機械での生産性向上は厳しいものがある。一層の利用間伐を基められる新たな補助金制度に対応するため今後は他の作業班も順次、林産型へ移行する必要がある、木材生産の習得・向上と高性能林業機械の導入を図る必要がある。 森プロ全体計画に対する指導と現地指導との間に若干の差異があり、事業実施にあたり戸惑うこともあった。 |
|--------------------|--|